

習熟度別英語リーディングストラテジー指導の効果

足立 望・大石 晴美¹⁾
(2017年1月5日受理)

The effects of reading strategy training based on reading proficiency

Nozomu ADACHI and Harumi OISHI

This study investigates the effects of reading strategy training based on the learner's reading proficiency. The participants were 42 students at Gifu Shotoku Gakuen University. First, subjects took a language proficiency test and were then divided into three groups based on their proficiencies. Next, they received strategy training for three months in a language class. Finally, they took the English proficiency test again. The study found that strategy training improved the participants' reading scores. It was also found that students with lower and middle level proficiency could grasp the text better as a whole as a result of strategy training. This implies that acquiring reading strategies is a complicated process and more detailed investigation into this process is required.

Key words: English reading, strategy, reading proficiency, strategy training

キーワード：英語リーディング、ストラテジー、習熟度、ストラテジートレーニング

1. はじめに

1.1 研究の背景

リーディング学習において、ストラテジーを使用することが、読解力を高める助けとなるという報告がいくつもある。Cohen (1988)によれば、リーディングストラテジーとは読み手が読解タスクを達成する際に好んで意図的に取る手続きである。Aghaie & Zhang (2012)は、リーディングが苦手な学習者の要因をリーディングに不可欠なストラテジーを身につけていないからであると指摘し、リーディングストラテジーを学ぶことは自律的読み手を育てることであり、また、意識的に人はそれを学んでゆく必要があると主張している。

Barnett (1988)は、フランス語学習者において、リーディングストラテジーが効果的であると述べ、読み手がストラテジーを認識していると読解力も高いと報告している。Carrell (1989)は、第一言語および第二言語について、リーディングストラテジーと読解力の関連性が高いと述べている。津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ(1992)は外国語学習において、読

み手のさまざまなストラテジーは、読解力を高めることを明らかにしている。

古くから行われてきたリーディングストラテジー研究から、優れた読み手は、既知の知識を用いて書かれていることを推測するといったトップダウンストラテジーを使う傾向があることが指摘されている(Carrel, 1989)。

一方で単語や文法等の知識を用いて積み上げ式に読解を進めていくというボトムアップストラテジーも有効なリーディングストラテジーであり、ボトムアップ・トップダウン両方を相補的にうまく用いることがリーディングに有効と考えられている(鈴木・森永, 2010)。しかし、語彙力や文法知識力がある一定レベルに達しないと、ストラテジートレーニングに効果が期待できないと言語閾値説では述べられている(山下・横山, 2004)。

鈴木・森永(2010)は、リーディングストラテジーの質問紙を用いて、リーディングストラテジーと読解力との関係を調査した。その結果、読解力テストとストラテジーの間にほとんど相関性が認められなかったと報告している。

1) 岐阜聖徳学園大学

足立 (2013) は鈴木・森永 (2010) と同一のリーディングストラテジーについての質問紙を用いて、読解力と相関の高いリーディングストラテジーを報告した。読解力と相関の高いストラテジーは、前後関係から単語の意味を推測すること、主題をとらえること、見出しから内容を予測すること、単語を分解して接頭語や接尾辞などに注目すること、主題文を探すこと、分からない箇所は何度も読み返すことなどであり、トップダウンのストラテジーがボトムアップのストラテジーよりも読解力と相関が高い傾向も認められることが分かった。この研究により、下位の受講者は語彙・文法力が低いため、英文を一文一文読むことに注意を向けるにもかかわらず意味を適切にとらえられないため、トップダウンストラテジーも効率的に機能しないという言語閾値説を支持することが示唆される。

一方で、リーディングストラテジーの指導によって読解力やストラテジーの使用がどのように変化するかについては先行研究では十分に明らかにされていない。Kamijo (2010) は、学習者に、skimming の仕方、教材タイプの認識、thesis statement, keyword やつなぎことばに注目し、意味内容を推測すること、サマリーを作るストラテジー指導を行い、サマリーを書かせアンケートを実施した。その結果、これらの指導が有効であることが確認された。しかし、これは受講者の主観的なデータであり、実際に受講者の英語力が伸びたかどうかは明らかでない。また、ストラテジーの使用頻度の変化やストラテジーと読解力との関係も明らかではない。

本研究では、習熟度の異なる学習者を対象にストラテジー指導を行い、習熟度の違いによって、ストラテジー指導は読解力の向上やストラテジーの習得にどのように有効に注目した。

1. 2 研究の目的

本研究の目的は、大学生の英語学習者を対象にして、リーディングストラテジー指導を行い、リーディングストラテジー指導が読解力向上に効果的であるか、また、リーディングストラテジーの指導によって使用頻度が増えるストラテジーの種類は何かについて明らかにすることである。

2. 研究の方法

2. 1 対象 リーディング授業受講者 42 名。

リーディングストラテジー指導前後で、英語力テストとアンケートを実施した。受講者を指導前の TOEIC の得点にもとづき 3 群に分けた。使用したテストは、

TOEIC 新公式問題集 Vol.6 (国際ビジネスコミュニケーション協会, 2014) である。得点率は表 1 の通りである。

表 1 受講者の習熟度 (文法とリーディング総合)

正答率	下位群	中位群	上位群
最低 (%)	17	36	45
最高 (%)	35	44	55
平均 (%)	28.85	41.33	48.15
標準偏差	5.84	2.44	2.88

2. 2 教材

“Making Connections ③” (Pakenham et al, 2013; Cambridge 社) を用いた。本教材は、リーディングストラテジーを身につけさせることに重点を置いている。

2. 3 リーディングストラテジー指導期間

2016 年 4 月 15 日～2016 年 7 月 18 日。

2. 4 リーディングストラテジー指導内容

ストラテジー指導の時間は基本的に英語で行い、受講者にも英語で答えさせた。上記の教材の 1-4 章 (ibid.: p.2-71) を用いて毎回の指導では、ストラテジーについて学ぶと共に、教材の読解問題や語彙問題も取り扱った。

各章では、次のストラテジー指導を行った。第 1 章では、パラグラフ構造 (導入—主題文—支持文—まとめの文) について習得させ、リーディング課題の主題とは何か、著者は何を主張しているのかを把握するストラテジーを指導した。導入には、主題文の背景的情報が記されているが、それは、主題文ではないことに気をつけること。主題文の次には支持文があること。主題文は、最後のまとめの文で繰り返されることを指導した。第 2 章では、原因—結果の文章パターンと鍵となる表現を指導した。第 3 章では、未知語や理解できない項目は無視をして、読み続けること。読み続けるうちに定義、例、対比表現から未知語が理解できる場合がある。色々な手掛かりを使って、理解できないことは推測をしながら読むこと。未知語であっても、知っている単語を利用して意味を推測できること、自らの背景知識を使って推測することを指導した。第 4 章では、指示代名詞は何を指しているのかについて、また、繰り返される名詞や同意語に注目することや既習の語彙知識を利用することを指導した。

教材に補足して、接頭辞・接尾辞からの単語の推測に関しては、補助教材などを用いて指導し、本文を参

照して練習した。そのほかに、主題を探すこと、レビューイングをすることを指導し、パラグラフの構造（原因・結果、リスティング、定義、問題解決、順序、比較・対照）を上記の教科書を利用しながら説明し、パターンを特定する練習を行った。

ストラテジーの教え方は、どんなストラテジーか、それを使用することの利点や使い方を実演しつつ提示し、受講者が教材を利用してストラテジー使用の練習を繰り返す中で定着させるようにした。

文の構造や文法構造をつかめていないものも多かったため、特に難しい文については、時に解説を加えたり、比較的詳しい解説をつけた訳例を後から受講者に配ったり、それを見て受講者の翻訳文を修正させ各長文が終わるたびに提出させたりした。

また、語彙力の増強を図るために既読の部分に関して単語テストをほぼ毎回行った。受講者には毎回単語テストの準備、さらに本文を読んで設問に答えてくることを課題に課した。

2.5 アンケート

2.5.1 アンケートの目的

リーディングストラテジーの使用頻度がストラテジー指導によってどのように変化するのか、さらにそれらがリーディング力とどのような関係があるかについてについて調べることである。

2.5.2 アンケート内容

アンケートの内容は、学習者がどのようなストラテジーをどのような頻度で使うかについての調査するものである。

調査には、アンケートの質問紙（卯城・清水;2007）を使用した。質問内容は34項目について5段階のリッカートスケール（1：全然あてはまらない、2：あまりあてはまらない、3：いくらかあてはまる、4：だいたいあてはまる、5：常にあてはまる）、で答えさせた（資料参照）。なお、指導の感想や要望についてストラテジー使用頻度についてのアンケートに加えて自由記述をさせた。

2.5.3 アンケート実施日程

ストラテジー頻度についてのアンケートを指導前後に行った（資料参照）。

指導前4月25日、指導後7月18日に実施した。

2.5.4 英語力について

TOEIC 問題集のリーディングセクションを使用し、文法・語法問題52問、リーディング48問をストラテ

ジー指導前後に実施した。

3. 仮説

本実験では、リーディングストラテジー指導の効果について、次のような仮説をたてた。

- 1) 第1回目より第2回目のTOEICの得点の方が高い。
- 2) 指導前後で使用するストラテジーが変化する。
- 3) 習熟度によってストラテジー使用状況が異なる。

4. 結果

4.1 TOEICの得点伸び率の結果

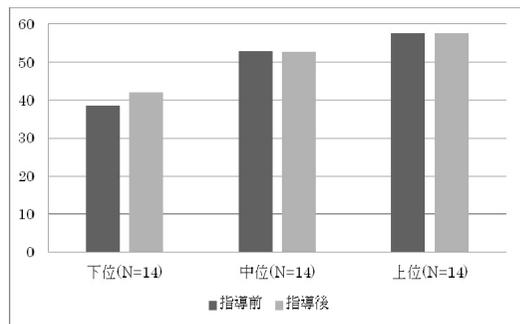


図1 指導前後のTOEIC 文法・語法問題の正答率

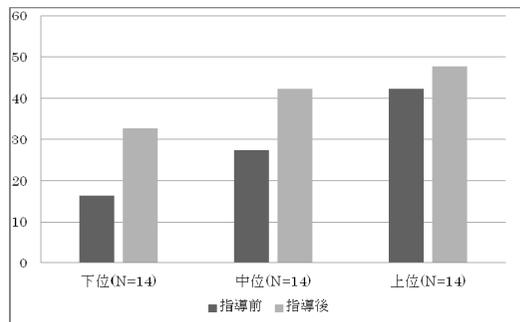


図2 指導前後のTOEIC Readingの正答率

4.2 アンケートの指導前後結果

34項目のアンケート（資料1）について、指導前後で0.4以上の差がある項目について習熟度別に記した（表2）。

(1) 上位のみ変化した項目

項目33の「メモ書きしながら読み進める」という項目については、「当てはまる」が増えた。

(2) 上位と中位に共通して変化した項目

項目29の「語の意味は知っているのにも関わらず、

文の意味がわからない場合には、そこを読み飛ばしていく」については、「当てはまる」が減った。

(3) 中位と下位に共通して変化した項目

項目2の「パラグラフの切れ目を意識して読み進めていく」については、「当てはまる」が増えた。

項目16の「文中の難しい単語や意味のわからない単語は、接頭辞や接尾辞などに分解して、その語の意味を理解しようとする」については、「当てはまる」が減った。

項目23の「文章の内容に関して、イメージや映像を思い浮かべながら読み進めていく」については、「当てはまる」が減った。

(4) 下位のみ変化した項目

項目26の「指や鉛筆などを使い、読んでいる英文の場所を追いつながり読み進めていく」については、「当てはまる」が減った。

表2 アンケート結果(差が0.4以上抜粋)

アンケート番号	33	29	2	16	23	26
上位群 指導前	3	3.3				
指導後	3.4	2.9				
後-前 差	0.4	-0.4				
中位群 指導前		3.6	4	3.7	3.8	
指導後		2.9	4.5	3.3	3.4	
後-前 差		-0.7	0.5	-0.4	-0.4	
下位群 指導前			4.1	3.8	3.8	3.1
指導後			4.6	3.4	3.3	2.7
後-前 差			0.5	-0.4	-0.5	-0.4

受講者に指導について書かせた自由記述形式のアンケートでは、教えた事柄について偏りなく触れているが、主題や主題文をよく学び、全般的に英語教材を前より理解しやすくなったと答えている。一方でその記述から主題や主題文の特定や、テキストの構造の把握などについて完全にはストラテジーを習得しきれていないこともうかがえた。

5. 考察

5.1 既述の仮説について

1) 第1回目より第2回目のTOEICの得点の方が高い。

1)の仮説は支持された。ストラテジー指導によって特に下位、中位の読解力を向上させることができた。未知語の意味の推測、教材の構造理解を通して教材への理解力が増えた結果と考えられる。文法指導をあまり行わなくてもストラテジー指導だけで読解力が向上することが確認された。語彙指導も語彙テストを通して行っていたため、本研究における受講者の読解力の

向上は、純粋にストラテジー指導のみの結果ではないかもしれないが、リーディング指導にある程度の示唆を与える結果であると言える。つまり、訳読式で文法指導を強調せずとも、語彙指導を行いつつリーディングストラテジー指導を行うことによって読解力を高めることができるということである。

2) 指導前後で使用するストラテジーが変化する。

2)の仮説は支持された。上位ではメモ書きをするというストラテジーが増えている。上・中位では分からない文を読み飛ばすというストラテジーが減っている。中・下位ではパラグラフを意識し、接頭辞や接尾辞を利用して未知語を理解するというストラテジーの利用が減っている。さらにイメージを用いて英文を理解しようとするというストラテジーが減っている。下位では、指でなぞったりして、読み進めることが減っている。

このようなストラテジーの使用の変化が受講者の読解力の成績の向上と関係があると言えるだろう。

3) 習熟度によってストラテジー使用状況が異なる。

3)の仮説は支持された。上述より、習熟度によってストラテジーの使用状況の変化に違いがあることがわかる。上中位ではていねいに読むことが促進された。中下位では全体の流れをとらえてスムーズに読むトップダウンのストラテジーが強くなっていることがうかがえる。

5.2 TOEICの得点上昇について

図1から、文法力や語法の知識は、ストラテジーの習熟度に関わらずストラテジー指導前後で変化しないことが明らかになった。また、図2からは、リーディング能力は、すべての学習群で向上していることが示された。

この結果から、本指導で指導したリーディングストラテジーは、明らかにリーディング能力を向上させたと言える。文法力や語法の知識には変化が見られなかったのは、ストラテジー指導では文法や語法について特に扱わなかったためであると考えられる。つまり、リーディングストラテジーを指導することによって文法力や語法の知識を習得させることはできないが、読解力が向上させることができることが分かる。また、その伸び率は、下位、中位、上位の順で高いことが示された。

5.3 ストラテジー使用状況について

上位では、「メモ書きしながら読み進める」ことが増えたが、ストラテジー指導を通して英文の理解が深まり、さらに正確に読めるようになったのではないかと

と考えられる

上位と中位に共通して変化した項目で示された「文の意味が分からない場合、読み飛ばさない」に当てはまる回答が増えたのは、正確に読み取ろうとする意識が高まったと考えられる。ストラテジー指導前は、正確に読むことができなかったが、指導によって、英文全の意味をより正確に捉えられるようになったとも推測できる。

中位と下位について考察しよう。「パラグラフの切れ目を意識して読み進める」に当てはまる回答が増えた。指導前までなんとなく読んでいたが全体の流れがつかめるようになってきたことが示唆される。

そして、「単語の意味を接頭語や接尾辞などから推測する」ストラテジー使用が減っている。これは、英文の意味が全体の流れから分かるようになったために、接頭辞などを用いる時間のかかるストラテジーを使う必要がなくなったとも考えられる。

「文章の内容に関してイメージや映像を思い浮かべることが減っている。意識的にイメージを浮かべなくても意味が取れるようになった可能性もある。主観的で勝手な推測に基づき正確とは必ずしも言えないイメージを作りだすことを回避しつつ、テキストを理解できるようになっている可能性もある。一方で、不正確なイメージから、正確な理解に基づくイメージへの過渡期にあるとも言えるかもしれない。

下位の受講者に注目すると「指や鉛筆などを使い、読んでいる英文の場所を追いながら読み進めていく」ことが減っている。時間のかかるたどたどしい読み方ではなく、全体を意識した読みに移行しつつあるのかもしれない。

点数が下位や中位で特に伸びたのは、全体の流れをとらえられるようになってきたためであるように思われる。

上位ではさらに正確に読もうとする様子が見られたが、様々なストラテジーを同時に使えるようになるとさらに効果的であろう。

総じて、今回のストラテジー指導によって読解力向上をもたらしたが、さらなるストラテジートレーニングによって、ストラテジーが自由に使いこなせるようになり、読解力がさらに向上するのではないかと推測される。

6. 結論

本研究において、リーディングストラテジー指導によって受講者の読解力が向上することが確認された。ストラテジー指導によって、受講者は全体が見通しや

すくなると考えられること、習熟度の高い受講者はさらにいていねいに読み進める傾向が強くなったことが本研究では分かった。このことから得られるさらなる教育的示唆は以下のものである。

訳読式ではなく、英語を用いて指導を行い、リーディングストラテジー指導を行う指導方法では、読み方が粗くなるといった心配をする指導者もあると思われるが、本研究からその心配はないであろうということが分かる

英語でリーディングストラテジー指導を行うことで、下位の受講者は全体に目を向けるようになる傾向があり、中上位の受講者もさらに正確に読もうとする意識が高まる。下位の受講者は教材全体の意味が分かるようになって自信を持つことができるであろうし、中・上位の受講者も正確に読み取ろうとする意識が高まり、ますます教材理解は深まると考えられる。全文訳を配布するなどすれば、細かい英文理解を受講者全員に促すこともできる。

ストラテジー指導を発展的にを行い、受講者が主題文や主題をすばやく発見し、要約し、推測が必要な質問を自分で考え、さらに自分の意見を言うような指導につながれば、英語だけを用いたコミュニケーション力を高める指導につながると思われる。そして、パラグラフや教材の構造理解を通して、ライティングや効率的なスピーキングにつなげていけると考えられる。

リーディングストラテジーを学ぶことによって、自然と文章全体を見渡せるようになり、部分の理解もしやすくなることが示唆されるが、文法指導の重要性が本研究によって揺らぐことはないと考えられる。本指導では、受講者にとって難しい文は和訳させ、それに関連した文法事項について解説プリントを配りチェックさせることによって文法確認をある程度行ったが、このような方法をさらにうまく活用することで受講者の文法力を向上させることも可能と考えられる。読解力向上に有益と考えられている文法力をいかにリーディングストラテジーと同時に高めていくかも課題と言える。

読解指導においてリーディングストラテジーをさらに定着させ、語彙学習、文法指導をいかに織り交ぜ、それらを発展的に指導していく道筋を考えていくことも今後の課題である。本受講者は教育学部の学生であるのでリーディングストラテジーを指導者の立場として教えるためには、意識的にリーディングストラテジーを使えるようにならなければならない。

受講者に読解指導のあり方を内省させ、自律的な学習者になるよう、受講者同士や、クラス全体でリーディングストラテジーについて話し合うことも重要である

と考えられる。受講者に現在、模擬指導という形でリーディングストラテジーを含む英文読解指導を行わせている。いずれ指導者となる受講者自身がストラテジー指導を、模擬授業の形で実際に行ってみることが、ストラテジーについて意識・理解し、英語による話し合いのスキルを高めていける最良の方法である可能性もある。なぜなら、自律的な読者となることがリーディング指導において極めて重要なことであるからだ。そして、自律的な読者の究極の姿は、読むことを教えることができることであろう。

リーディングストラテジー習得には時間がかかり、それを持続的に続けていくことが必要である。本研究は3か月継続した。引き続きトレーニングを重ね、さらにどのように変化をするのかを観察することも興味深い。

また、本研究では、受講者のリーディングストラテジーが実際にどのように行われているかを、質問紙だけを用いて調査した。今回の研究では必ずしも明らかにはならなかった学習者の読み方をアイカメラを使用し、リーディングストラテジー使用の変化とその分析について紙面をあらためて書き、さらに詳しくリーディングストラテジー使用の状況を明らかにしたい。

引用文献

- 足立望 (2013) 大学生のリーディングストラテジーについての一考察, 岐阜聖徳学園大学教育学部教育実践研究センター紀要, 13, 113-120
- Aghaie, R. & Zhang, L. (2012) Effects of explicit instruction in cognitive and metacognitive reading strategies on Iranian EFL students' reading performance and strategy transfer. *Instructional Science: An International Journal of the Learning Sciences*, 40 (6), 1063-1081
- Barnett, A. (1988) Reading through context: How real and perceived strategy use affects L2 comprehension. *Modern Language Journal*, 72(2), 150-162
- Carrel, L.(1989) Metacognitive awareness and second language reading. *Modern Language Journal*, 73, 121-134
- Cohen, D.(1998) *Strategies in learning and using a second language*, London: Longman
- Kamijo, T.(2010) Metacognitive Reading Strategies in EAP and Their Pedagogical Application: Extended Research and Its Implications, 立命館言語文化研究, 22(4), 217-232
- 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2014) *TOEIC テスト新公式問題集 vol.6*, 東京: 国際ビジネスコ

ミュニケーション協会

Pakenham et.al(2013) *Making Connections* ③, New York: Cambridge University Press

鈴木・森永 (2010) 読解力とリーディング・ストラテジー活用度との相関性に関する一考察, 常葉学園大学外国語学部研究紀要, (26), 87-102

津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ (1992) *学習者中心の英語読解指導*, 東京: 大修館書店

山下純一・横山吉樹 (2004) 第二言語学習者が用いるリーディングストラテジーの発達についての考察, *HELES JOURNAL*, 4, 65-82

資料

アンケート項目

1. 句・節等の文法的切れ目を意識して英文を読む進めていく
2. パラグラフ (段落) の切れ目を意識して読む進めていく
3. 文中の過去・現在等の時制に着目して読み進めていく
4. 文章中の単語の意味を一つ一つ理解しようとする
5. 与えられた英文を日本語に訳しながら読み進めていく
6. 意味のわからない単語は、それがどのような意味か前後の意味から推測しようとする
7. 最初のパラグラフ (段落) から最後のパラグラフまで、書かれてある順番に従って読み進めていく
8. 文の主語、目的語がどれであるか、あるいは文型がどうなっているかなど、文の構造を意識して読み進めていく
9. 本文を読み始める前に、その内容がどのようなものか見出しからあらかじめ推測した上で、文章を読み始める
10. わからない箇所があれば、その先を読むのをあきらめる
11. 英文を読みながら、それが新聞記事であるか、科学論文であるか、小説であるかなど、ジャンルの違いを意識して読み進めていく
12. 文章の難しさに応じて、読む速度を速くしたり遅くしたりする
13. 難しい箇所は、口に出して、あるいは心の中で発音してみて、その意味を理解しようとする
14. 意味のわからない単語は、一つ一つ意味を考えたりせずに、飛ばして読み進めていく
15. 自分の持っている知識や情報と、文章の内容とを関連させながら読み進めていく

16. 文章中の難しい単語や意味の分からない単語は、接頭辞や接尾辞などに分解して（例 un-friendly）その語の意味を理解しようとする
17. 文章全体の大意をざっとつかんだ上で、次に細かく読む
18. 各単語の意味は知っているにも関わらず、英文の意味が解らない場合は、その箇所がどのような意味か前後の関係から推測しようとする
19. 文中の代名詞は、何を指しているかを意識して読む進めていく
20. 大切な内容の箇所に、下線を引いたり、印を付けたりしながら読み進めていく
21. わからない箇所があれば、その箇所を何度も読み返す
22. 口に出して、あるいは心の中で発音しながら読み進めるようにしている
23. 文章の内容に関して、イメージや映像を思い浮かべながら読み進めていく
24. 日本語に訳さず、英文のまま理解しようとする
25. わからない箇所があれば、その箇所より前に戻って、そこからもう一度読み返す
26. 指や鉛筆などを使い、読んでいる英文の場所を追いながら読み進めていく
27. 読むときには、見出しを内容理解のための参考にしながら読み進めていく
28. 理解しやすいように、句、節等の文法的な切れ目に実際に印を付けながら読み進めていく
29. 各単語の意味は知っているにも関わらず、英文の意味がわからない場合は、そこを飛ばして先を読み進む
30. 次にどのような内容が来るかを予想しながら、読み進めていく
31. 文章の構成、展開を理解するために、接続詞やつながりのことば（例：however, besides, etc.）に注意して読み進めていく。
32. 文章を読み終えたあとで、自分の言葉でその内容を要約してみる
33. メモ書きしながら読み進める
34. 質問を先に読んでから、英文を読み進めていく